



御挨拶

激しく変動する今日の国際情勢と日本の置かれている立場を考えると、わが国が国際社会において貢献することがますます重要な課題となっています。

YFU (Youth For Understanding) は世界56ヶ国にそれぞれのYFU組織及び提携組織を持ち、相互に連携を図りながら青少年国際交流を進める非営利の国際団体です。

日本のYFUは、1958年に日本の高校生を交換留学生として米国に派遣し、その後1964年に米国の高校生を日本に受入れて以来、一貫して、若人に、異文化体験を通じてお互いの生活様式や文化を正しく理解する機会を提供するための国際教育交流を実施すると共に、ヨーロッパやアジア等の諸国へと交流の輪を広げてまいりました。高度なレベルの世界YFU共通のプログラム基準に則り、半世紀以上にわたって、ボランティア支援の下、派遣・受入れ双方向の交流を着実に積み重ねてきた日本のYFUが青少年の人間形成の増進の上で果たした役割と貢献は多大なものであったと自負しております。

日本のYFUは、上記の通り任意団体YFU日本協会として36年、外務省、文部科学省共管財団法人として19年、内閣府を所管行政庁とする公益財団法人YFU日本国際交流財団（2012年4月1日移行）としての11年を合わせ65年間に亘り、青少年国際交流プログラムの実績と経験を積み重ねてまいりました。

不透明さを増す国際状況の中で内外の若者達の国際感覚を育成するとともに、国際相互理解の推進によって世界の平和に寄与したいと願うYFUの役割はますます大きくなっています。私共はこの様な期待に応え得るような若人を育む一助としてYFU国際交流事業を一層推進していく所存であります。

YFU国際交流プログラムに対しまして、皆様の変らぬ御支援、御鞭撻を賜りますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

公益財団法人 YFU日本国際交流財団
理事長 加藤 良三

YFU

Youth For Understanding



YFU高校生国際交流プログラム概要
GO GLOBAL! Expand your world!

CONTENTS …… 目次

ご挨拶

YFUとは ……	3
YFU日本の沿革 4 / 組織図 5 / ボランティア・ネットワークによるサポート体制 6 / 世界のYFU 7 / 長期プログラム交流国 8 /	

海外留学

YFU長期派遣プログラム ……	9
派遣プログラムカレンダー 9 / 募集・選考のプロセス 10 / 派遣プログラム参加者推移 11 / 行き届いた指導・サポート 12 / 奨学金（スカラシップ）制度 14 /	

YFU長期受入プログラム ……	16
受入プログラムカレンダー 17 / 受入プログラム参加者推移 18 /	

YFU短期受入・派遣プログラム ……	19
--------------------	----

YFUの歩み ……	20
-----------	----

YFU高校生留学に関するQ & A ……	21
----------------------	----

派遣学生出身校一覧 ……	30
--------------	----

外国高校生長期受入校一覧 ……	39
-----------------	----

Mission Statement

YFU prepares young people for their responsibilities and opportunities in a changing, interdependent world.

● 創設

第2次世界大戦直後の荒廃から世界平和実現の夢を若者に託して、ミシガン州アナーバーのレイチェル・アンドレセン博士（YFU初代会長）が西ドイツ75名の高校生をアメリカに1年間招き、YFU交換留学プログラムが始まる
現在では、世界60ヶ国にYFU組織及び提携組織を持つ青少年国際交流ネットワークになっている

● 内容

1. 若き民間大使の「草の根」国際交流
2. 家族ぐるみで異文化理解
3. ボランティアの家庭での生活体験
4. 現地の学校に通う学習体験

これら異文化理解・適応の過程で様々な困難を乗り越えることで、人間的成長と人格形成が図られる

● 目的

世界各国のYFU組織及び提携組織と連携して、高校生を中心とする青少年の国際交流による教育的異文化体験を推進することによって、国際相互理解を広め、高校生の国際性育成と世界平和に寄与する

YFUプログラムに参加すると…

- 異文化の家族とともに生活することで、異なる価値観への理解が深まる
- 異なる生活様式・習慣の中で、精神的な成長が促進される
- 自国の文化や家族を改めて見つめ直す機会が得られる
- 国際感覚が身に付きコミュニケーション能力が向上する
- 受入ホストファミリーを体験することで、家族ぐるみで「YFU世界ファミリー」に加わる



YFU日本の沿革

YFU日本活動開始

1958年に初めて2名の日本の高校生を米国に派遣してから現在までに、YFU日本のプログラムを通じて、日本から諸外国に派遣された交換学生と海外から日本に受入れた交換留学生を合わせると2万名を超え短期派遣受入れ先を含めると3万5千余名となります。

YFU日本協会組織

当初は全くのボランティア運営で日米間の高校生相互交流を実施していましたが、留学生数が数百名に達した段階で、一層の充実と発展を図るために1977年に新たに「YFU日本協会」を組織し、事務所と専従スタッフを設けました。

スタッフ及びボランティアの訓練研修を実施し、YFU日本の組織強化と責任体制の確立、各種資料の国際的基準に則った整備・統一、YFU国際センターとの相互協力・支援関係の強化と交流プログラムの質的向上に努めました。

1980年までは日米交流が中心でしたが、

1981年以降は交流国をオセアニア、ヨーロッパ、アジア各国へと順次交流対象国を拡げてきました。

外務省・文部省共管の財団法人として設立許可

この間、日本のYFUはそれまでの活動実績が評価され、1993年7月、外務省と文部省の共管による「(財)ワイ・エフ・ユー日本国際交流財団」となりました。2005年の外務省支援によるヨーロッパ交流の実施により交流国は一挙に増え、YFU日本の交流実績国は45ヶ国に達しています。

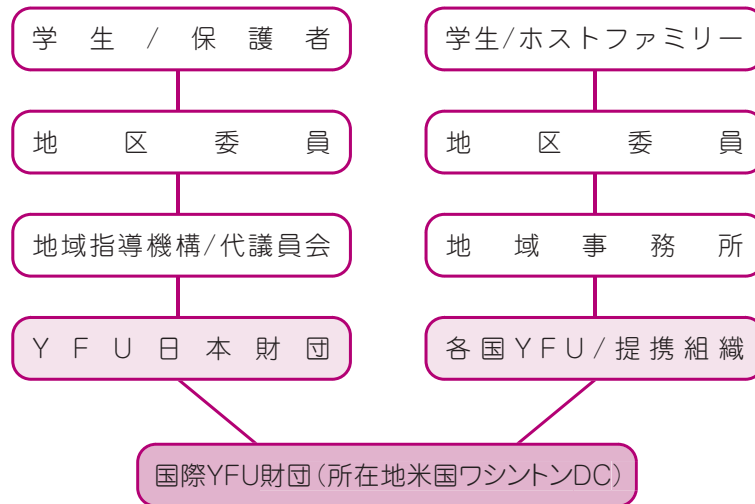
公益財団法人へ移行

今後も、世界の若者たちの相互交流に積極的に奉仕するボランティアの全国的ネットワークを活かし、国際的友情の輪を世界に広げるプログラムの発展と向上をめざします。

公益法人制度改革3法に基づく移行認定を経て2012年4月より公益財団法人YFU日本国際交流財団となりました。



組織図



- YFUでは、学生のスムーズな異文化への適応のために、情報・コミュニケーションの流れもこの組織図に準じたものになっています



ボランティア・ネットワークによるサポート体制

YFUプログラムの特徴は、日本全国に650名いるボランティアがプログラムを支えていることです。

ボランティアは地区委員と副地区委員とで構成され、前者は過去のYFUプログラム参加学生の親でホストファミリーを体験しYFUのトレーニングを受けた者、後者はYFU体験をした帰国生です。

YFUボランティアは各地域で活動します。

地区委員は、応募者の選考における面接、オリエンテーションの実施、派遣学生及び受入学生やホストファミリーに対するサポート・指導やカウンセリング、留学生のためのホストファミリー・インタビューなど、YFU事務局職員と協力してYFUプログラム実施に携わります。副地区委員は選考での英会話テスト、オリエンテーションでの体験談・アドバイスなどの他様々なYFU

プログラム実施に於て地区委員を補佐します。

世界各国のYFU組織にも、同様のボランティア・ネットワークがあり、草の根レベルでの国際交流を支える重要な役割を果たしています。



世界のYFU交流実績国



地域	国名	国数
北米	アメリカ カナダ	2
中南米	アルゼンチン ウルグアイ エクアドル	9
	コロンビア チリ パラグアイ ブラジル	
	ベネズエラ メキシコ	
ヨーロッパ	オーストリア ベルギー	30
	ブルガリア チェコ	
	デンマーク エストニア	
	フィンランド フランス ドイツ ジョージア	
	ギリシャ ハンガリー イタリア	
	ラトビア リトアニア	
	ルクセンブルク モルドバ オランダ	
	ノルウェー ポーランド ポルトガル	
	ルーマニア ロシア セルビア スロバキア	
	スペイン スウェーデン スイス	
	トルコ イギリス	
アジア	アゼルバイジャン 中国 インド インドネシア	10
	日本 韓国	
	モンゴル フィリピン タイ	
	ベトナム	
大洋州	オーストラリア ニュージーランド	2
アフリカ	エジプト ガーナ 南アフリカ	3
合計		56

- 世界約56ヶ国にYFU（パートナー組織・団体を含む）があります。
このうちYFU日本と交流実績のある国は45ヶ国（赤字）です。

長期プログラム実績国

受入対象国 (32)

米国
 イタリア
 ドイツ
 デンマーク
 オランダ
 フランス
 ベルギー
 スペイン
 スイス
 オーストリア
 ハンガリー
 エストニア
 ラトビア
 リトアニア
 ルーマニア
 スロバキア
 チェコ
 スウェーデン
 フィンランド
 ノルウェー
 ポーランド
 アルゼンチン
 ブラジル
 エクアドル
 ウルグアイ
 パラグアイ
 メキシコ
 韓国
 タイ
 インドネシア
 トルコ
 ブルガリア



派遣対象国 (16)

米国
 カナダ
 ドイツ
 オランダ
 チェコ
 ベルギー
 スイス
 オーストリア
 ハンガリー
 デンマーク
 エストニア
 フィンランド
 フランス
 韓国
 タイ
 フィリピン



02

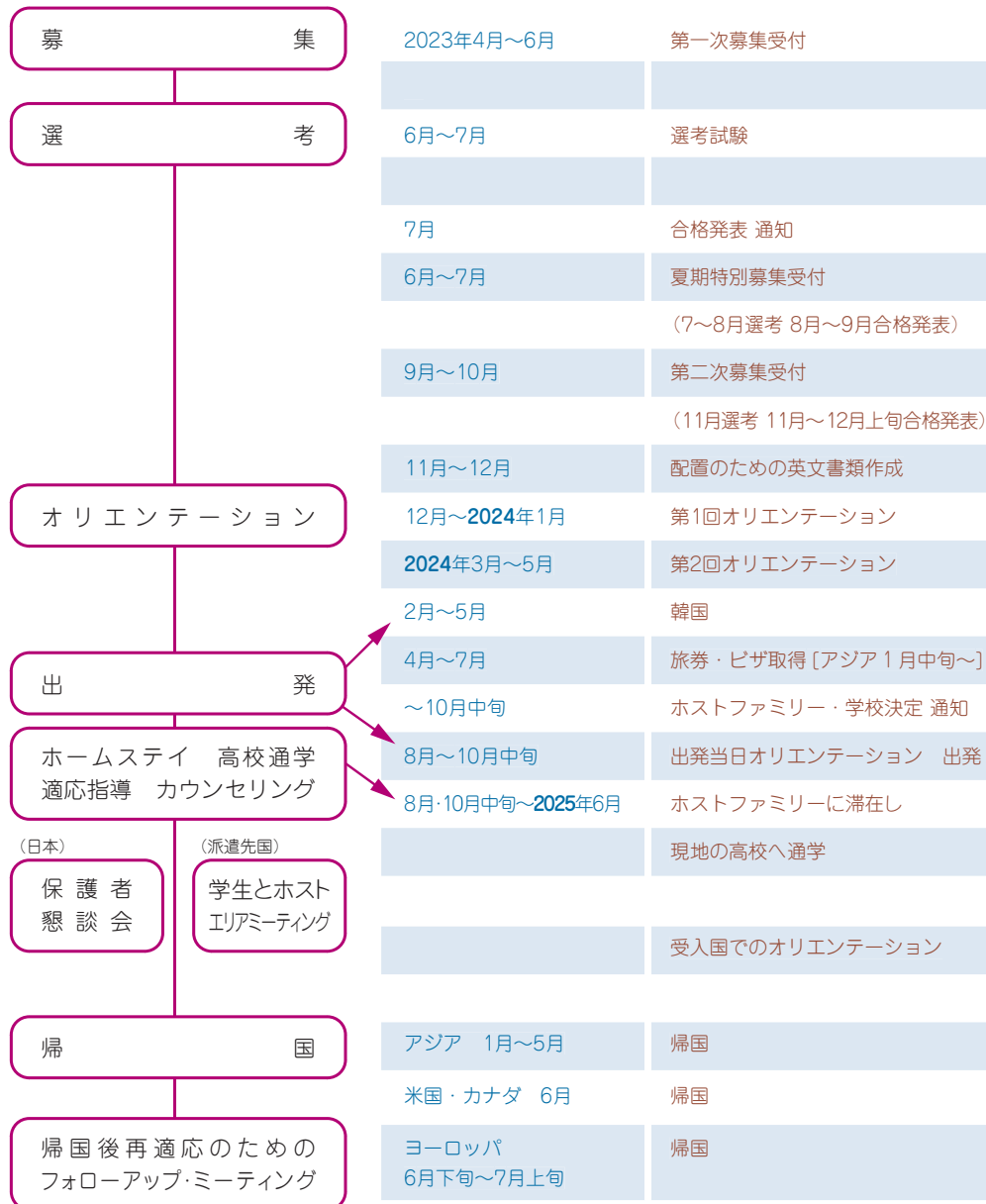
YFU長期派遣プログラム



— Youth For Understanding International Exchange —

GO GLOBAL **YFU**
Expand your world

派遣プログラムカレンダー



- このチャートは米国・カナダ・ヨーロッパ・アジア派遣学生用のもの。オリエンテーションは全国9ヶ所で実施（韓国派遣学生の第2回オリエンテーションは東京で実施予定）
韓国派遣学生は出発が3月上旬、タイは6月中旬、（いずれも予定）のためプログラムスケジュールが異なります
- 状況により出発時期は変更・延期となる場合があります

募集・選考のプロセス

1. 応募受付

選考料振込の後、規定の応募書類をYFU財団事務所に直接送って下さい。

2. 選考の案内

応募書類受理後、受験票、選考案内を郵送します。

3. 選考の実施

- **書類審査** 学校長の推薦内容、学業成績についての書類審査をします。
- **学科テスト** (英語*、常識) 及び**面接** (英会話: 学生、面接: 学生・保護者) を実施します。

* 英語のテストはELTiSを使用

- **選考料 ¥26,000**

(※米国派遣応募生で英語の2次テストを受験する場合別途¥5,500かかります)

4. 合否決定

書類審査及び学科・面接両テストの総合評価により選考審査委員会で合否を決定します。

5. 合否通知

学生への合否通知は郵送により行いません。合否に関する電話等での問い合わせはご遠慮下さい。

6. 応募資格

- 2006年4月2日～2009年4月1日に生まれた生徒 (受験時に中学3年生～高校2年生)
- 韓国、オーストリア、ベルギー、デンマーク、スイス、フィンランド、フランス、ハンガリー、タイは、別途生年月日等による制限があります。(詳しくは、受験要項を参照して下さい)。
- 出発時、高等学校 (通信制高校及び専門学校は対象外)、中等教育学校、高等専門学校に在学中で、在学校長から推薦を受けた生徒 (受験時、通信制中等部・中学コース等に在学中の生徒は選考の対象となりません)。
- 受験時、過去2学年間の合計欠席日数 (登校しても全授業に出席しない日数を含む) が20日以内であること。
- 心身ともに健全で交換留学生活に支障がなく、かつ異文化への適応力があり、相応の英語力を有すること。
(動物アレルギー及び特殊なアレルギーの方、又は既往症があり派遣先国で引続き治

療が必要な方は参加できません。)

- コロナワクチン3回接種は必須となり、接種証明書が必要です。留学期間中に更に現地で追加接種することに本人・保護者の同意書の提出が必要になります。
- 大使館/領事館におけるビザ面接の結果により、プログラム参加ができない場合があります。
- 国籍によってはビザが取得できない場合があります。日本国パスポート以外をお持ちの方は、必ず前もって当事務所にご相談ください。
- 以前J-1かF-1ビザで米国に滞在した方は、米国へ派遣する事はできません。

年間派遣プログラム67期生参加費

¥1,880,000 (米国)

¥1,690,000 (米国・カナダ以外の国)

※カナダ派遣については別冊子を御参照下さい。

● 参加費に含まれるもの:

往復航空運賃 (国際線及び現地国内線)
YFU保険料
オリエンテーション参加費
カウンセリング諸経費
各種資料代
YFU組織運営管理費等

● 参加費に含まれないもの:

燃油サーチャージ、航空保険料、外国諸税、空港施設利用料、ビザ申請料、ビザ取得関連費用、予防接種費用、PCR検査費用、オリエンテーション参加交通費、自宅から羽田・成田空港等までの費用、派遣先国での小遣い (派遣先により異なりますが月約2万円) PCR検査費用、隔離費用 (派遣先国による)

授業料は免除されますが、実験・実習費、教科書代、通学交通費等、学校経費等の負担が求められます。派遣先国で実施するアクティビティー又は旅行費用

■ オランダ ドイツ オーストリア派遣学生の語学研修費 13万円

■ スイス派遣学生の語学研修費 15万円

■ フィンランド派遣学生の現地付加価値税 10万円

■ フランス派遣学生の追加サポート費 12万円
及び語学研修費 24万円

査証取得のため、政府指定の保険加入が求められる国もあります (2022年参考情報: オーストリア・スイス・オランダ)。国により入国時の隔離や検査が求められることがあり自己負担となります。

- 「受験要項」(別紙) もご参照下さい

派遣プログラム参加者推移

派遣国	2019年度 以前累計	2020年度	2021年度	2022年度	過年度 累計	2023年度 予定
米国	14,459	0	39	28	14,526	14
ドイツ	757	0	25	22	804	23
オランダ	205	3	2	7	217	5
ベルギー	56	2	2	1	61	6
スウェーデン	180	0	0	0	180	0
フィリピン	49	0	0	0	49	0
ノルウェー	69	0	0	0	69	0
カナダ	83	14	50	68	215	80
フィンランド	120	4	5	3	132	6
スイス	103	4	2	1	110	2
韓国	53	1	1	2	57	2
タイ	16	2	2	2	22	7
デンマーク	56	0	0	2	58	2
ハンガリー	50	0	7	3	60	10
エストニア	33	4	7	9	53	10
オーストリア	39	2	3	1	45	3
中国	1	0	0	0	1	0
チェコ	6	4	1	3	14	4
フランス	9	0	3	2	14	3
その他*	987	0	0	0	987	0
派遣合計	17,331	40	149	154	17,674	177

*オーストラリア、ニュージーランド、イギリス、スペイン
 ※2020年度は新型コロナ感染拡大の影響により10ヶ国のみ派遣



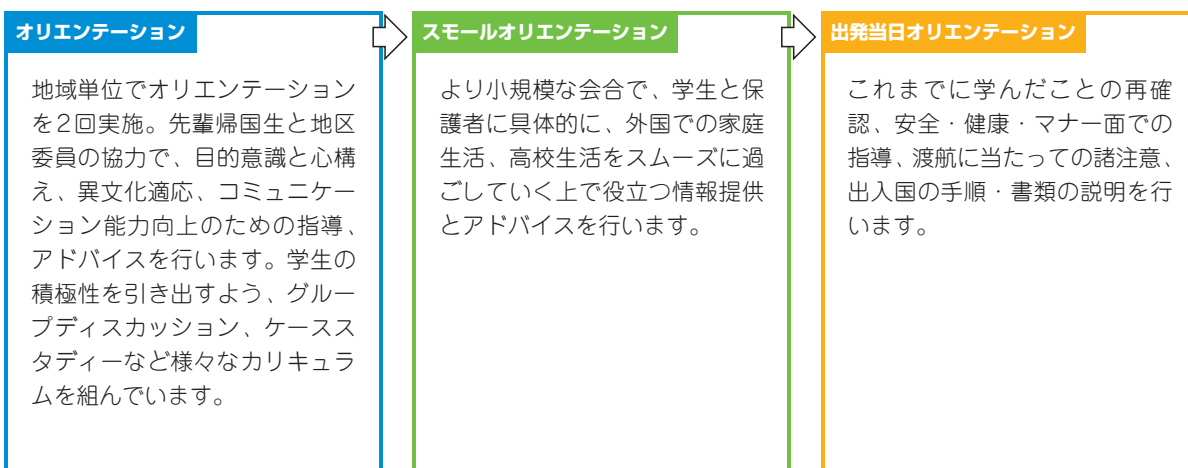
行き届いた指導・サポート

● 高校生留学に関心をお持ちの方々へ

全国主要都市でのYFU主催留学説明会（ウェブサイトのトップページ「説明会会場マップ」をご覧ください）のほか、各地域で個人の留学相談にも応じています。

世界各国のYFUが選定するボランティア家庭にホームステイしながら、現地の高校（正規後期中等教育機関）に1学年間通学し、ホストファミリー・学友とともに異文化体験を分かち合います。

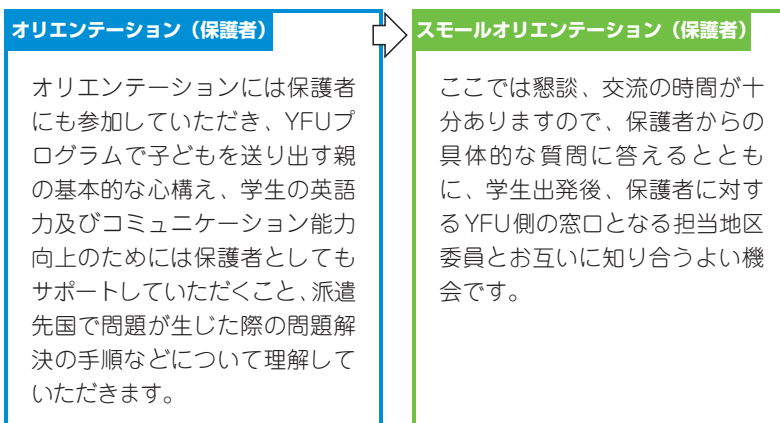
参加学生に対する指導・サポート



※留学説明会及びオリエンテーションにつきましては、状況によりオンラインになる場合もあります

合格 → 出発前オリエンテーション → 出発

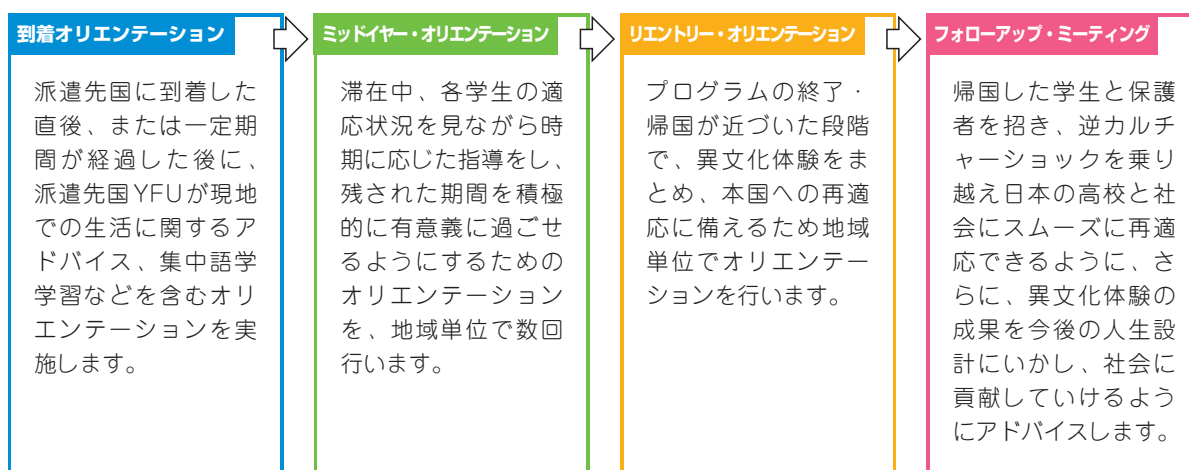
保護者に対する指導・サポート



行き届いた指導・サポート

派遣先国のYFU組織及び提携組織（事務所と専任スタッフ）と、各学生を担当するYFU地区委員が相談、世話、アドバイスに当たり、家庭、学校等での問題の早期発見、早期解決に努めています。また、問題の状況により専門のカウンセラーが、よりよい解決のための方向づけ、アドバイスを行います。必要に応じて日本のYFU組織にも連絡と報告が寄せられ、両派遣・受入YFU組織の協力により問題の解決が図られます。

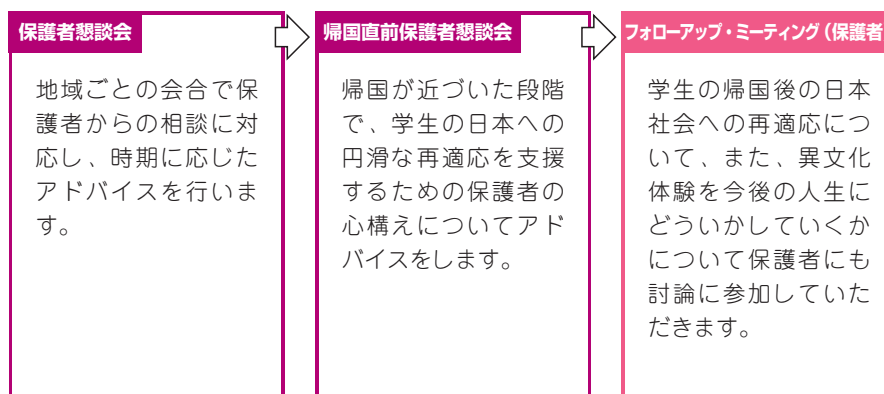
参加学生に対する指導・サポート



※各オリエンテーション・フォローアップ・ミーティングは状況によりオンラインになる場合もあります

到着 → 派遣先国滞在中 → 帰国

保護者に対する指導・サポート



奨学金（スカラシップ）制度

- YFUでは奨学金財源の確保に努め、公的機関、民間法人等の支援によるもの、YFU財団の提供によるもの等幅広い奨学金計画を推進しています。67期生（2024年度派遣）についても各種奨学金計画を実施します。

◆民間法人等の奨学金プログラム

キックマン・スカラシップ

※コロナ等の状況により中止となる場合があります

キックマン・ローカル・スカラシップ

（米国派遣2名、参加費全額支給）

- 千葉県内の高校1、2年生が対象
- YFU財団に申込み

FHJ・キックマン・スカラシップ

（米国派遣2名、参加費全額支給）

- 全国高等学校家庭クラブ連盟（FHJ）に加盟する高校の1、2年生が対象
- FHJに申込み

ソニーグループ国際教育基金スカラシップ

※状況により中止となる場合があります
（参加費全額支給）

- ソニーグループ各社の社員の子弟、孫、甥姪で、高校1、2年生と中学3年生が対象
- 詳細はソニーグループ国際教育基金にお問い合わせ下さい

◆公的スカラシップ

長岡市米百俵財団

- 新潟県内の中学3年生もしくは高校、高専1、2年生で長岡市内に引き続き1年以上居住世帯の生徒が対象
- 長岡市米百俵財団とYFUに申込み
YFUプログラム参加費の半額に相当する金額を支給します
- 詳しくは長岡市米百俵財団のホームページ募集要項をご覧ください

奨学金(スカラシップ)制度

◆ YFU財団スカラシップ

派遣プログラムで海外に派遣されるYFU学生を対象とするYFU財団の奨学金には以下のものがあります。他のスカラシップを受けていないYFU学生を対象とします。

[地域対象スカラシップ]

(参加費一部支給)

1. 東北地域特別スカラシップ
出発時に東北各県内の高校に在学する生徒が対象
2. 関東地域特別スカラシップ
出発時に東京都、神奈川県内の高校に在学する生徒が対象
3. 北陸地域特別スカラシップ
出発時に富山、石川、福井県内の高校に在学する生徒が対象
4. 東海地域特別スカラシップ
出発時に岐阜、静岡、愛知、三重各県内の高校に在学する生徒が対象
5. 関西地域特別スカラシップ
出発時に京都、大阪、兵庫、奈良各府県内の高校に在学する生徒が対象
6. 山陽・山陰地域特別スカラシップ
出発時に鳥取、島根、岡山、広島、山口各県内の高校に在学する生徒が対象
7. 四国地域特別スカラシップ
出発時に四国各県内の高校に在学する生徒が対象
8. 九州地域特別スカラシップ
出発時に九州各県内の高校に在学する生徒が対象

● スカラシップの申込み方法

希望者はYFU財団スカラシップ係、または、各法人等にお問合せ下さい。なお、スカラシップ受給の可否はスカラシップ選定審査委員会で決定します。(民間青年大使スカラシップは2024年7月中旬～下旬頃、その他のYFU地域対象スカラシップは2024年2月中旬頃に決定)

[全国対象スカラシップ]

(参加費一部支給)

1. ヨーロッパ特別スカラシップ
派遣学生の内、成績優秀者が対象
2. アジア特別スカラシップ
派遣学生の内、成績優秀者が対象
3. 民間青年大使スカラシップ
他に奨学金を受けていないYFU学生全員が対象で、成績優秀者に出発時に支給される
民間青年大使スカラシップは「願書あ」の「希望スカラシップ」欄に記入しないで下さい。

若い外国留学生を家族の一員に！

YFUでは1969年以来派遣・受入相互交流を実施してきており、外国高校生の長期受入れにも力を入れています。

家族ぐるみで異文化体験を

外国高校生は現在の日本に大きな関心を寄せ、伝統と実績を持つYFUを通じて日本で生活体験をしたいと希望しています。動機や目的は様々ですが、日本の家族の一員として家庭生活を楽しみ、また日本の高校に通学し多くの友達を通して日本の姿を彼ら自身で感じ

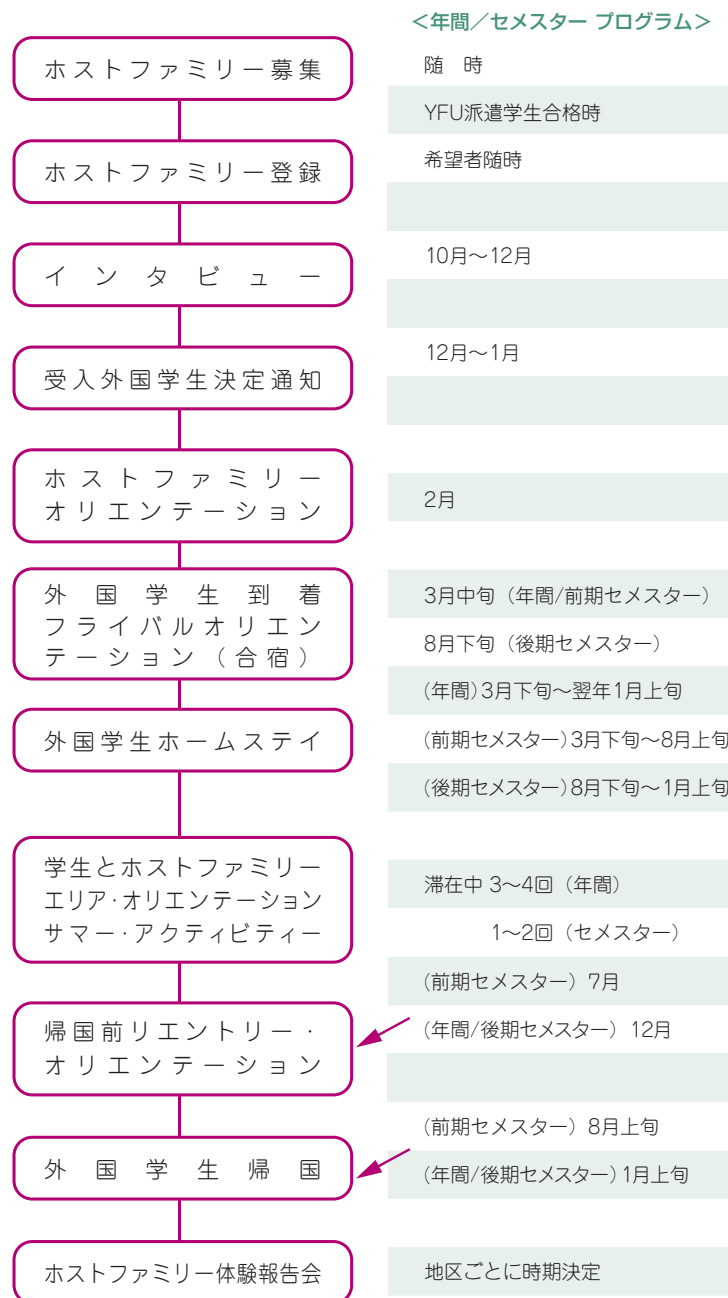
たいと願っています。

国際相互理解を広げるという点では、日本の高校生が海外での異文化体験で国際理解を深めることと同じように、外国高校生を日本に受入れて、日本での生活・学習体験を通して日本の社会・文化への理解を深めてもらうことは、非常に大きな意義があります。受入れ家族ではいながらにして異文化体験ができます。

YFU留学生は家族の一員として無償で受入れていただきます。



受入プログラムカレンダー



年間受入は、3月中旬来日後到着の合宿オリエンテーションの後、ホストファミリーへ移り、4月より12月まで高校に通学します。

受入学生・ホストファミリーに対するサポート

YFUでは各留学生・ホストファミリーに対して常時相談と世話に当たる担当地区委員を定め、高校受入の交渉をはじめ、エリア・オリエンテーションにより地区毎に学生・ホストファミリーに対する時期に応じたアドバイスを行います。帰国は翌年1月上旬です。

前期セメスター受入は、3月中旬来日後到着の合宿オリエンテーションを受け、4月より7月まで高校に通学します。帰国は8月上旬です。

後期セメスター受入は、8月下旬来日後到着の合宿オリエンテーションを受け、9月より12月まで高校に通学します。帰国は1月上旬です。

- 状況により来日スケジュールが変更となる場合があります
- 到着オリエンテーションカリキュラム
集中日本語学習、日本の家庭・学校・社会、YFUの趣旨・方針・規則
その他、スムーズな日本適応のためのアドバイス

受入プログラム参加者推移

受入国	2018年度 以前累計	2019年度	2020年度	2021年度	過年度 累計	2022年度
米国	462	6	—	—	468	8
ドイツ	421	32	—	—	453	28
オランダ	167	0	—	—	167	1
ベルギー	24	2	—	—	26	1
スウェーデン	159	2	—	—	161	—
フィリピン	73	0	—	—	73	—
ノルウェー	49	0	—	—	49	2
カナダ	24	0	—	—	24	—
フィンランド	132	4	—	—	136	3
スイス	84	1	—	—	85	5
デンマーク	25	1	—	—	26	—
韓国	86	2	2	—	90	2
タイ	94	6	—	—	100	7
ハンガリー	19	1	—	—	20	2
ラトビア	6	0	—	—	6	—
エストニア	25	5	—	—	30	8
リトアニア	3	1	—	—	4	—
オーストリア	26	0	—	—	26	—
フランス	9	3	—	—	12	3
ルーマニア	6	0	—	—	6	—
インド	12	0	—	—	12	—
中国	4	0	—	—	4	—
モルドバ	2	0	—	—	2	—
インドネシア	3	0	—	—	3	1
パラグアイ	3	0	—	—	3	—
ブラジル	2	1	—	—	3	—
トルコ	2	0	—	—	2	—
メキシコ	1	1	—	—	2	—
チェコ	4	0	—	—	4	1
スロバキア	3	0	—	—	3	—
イタリア	1	0	—	—	1	—
エクアドル	1	0	—	—	1	—
ポーランド	1	0	—	—	1	1
アルゼンチン	0	1	—	—	1	—
スペイン	0	1	—	—	1	1
その他	687	0	—	—	687	1
受入合計	2,620	70	2	—	2,692	79

※2020年度及び2021年度は2020年度の韓国からの2名の受入学生を除き、政府のコロナ感染防止対策による入国規制の為受入プログラムはキャンセルになりました。

受入プログラムでは、政府関係スカラシップや法人スカラシップで来日する学生もいます。

来日外国高校生にスカラシップを提供して頂いた公的機関・民間法人

文部科学省、在日アメリカ大使館、ドイツ政府、JUSSE（上院交流、YFU日本財団）、キックマン、トヨタTEMA、韓国トヨタ、ソニーグループ国際教育基金財団、三菱電機USA、かめのり財団、FCCLA、JBSD（デトロイト日本商工会）、マツダ・カナダ財団、三井USA、セイコー・エプソン、BOSCH財団（ドイツ）（敬称略 順不同）

- **国際ソロプチミスト東京一桜より**
YFUサマー・アクティビティーに毎年御協力いただいています

04

◎ YFU 短期受入・派遣プログラム



Youth For Understanding International Exchange

GO GLOBAL YFU
Expand your world!

短期受入プログラム

夏期短期受入 (6週間)

主にアメリカ学生、6月中・下旬来日、ホストファミリーとの生活を中心に1週間程度の高校体験も行います。YFUでは各留学生・ホストファミリーに対して担当地区委員を定め、地区単位で留学生が参加するサマー・アクティビティーを実施します。7月下旬・8月上旬に帰国します。ヨーロッパ、韓国からはそれぞれ10名程度、7月上・下旬に来日、8月上～中旬に帰国します。

冬期短期受入ほか

アジア諸国からの文部科学省支援異文化理解ステップアップ事業招致学生、韓国トヨタYFU奨学生など、冬期に3～4週間程度受入れます。通常夏期に受入れした米国短期学生は2022年度は政府のコロナ水際対策による入国規制により冬期に受入れた。

	派遣元国	2018年度 以前累計	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
夏期・冬期他 プログラム	米国	12,625	121	—	—	35
	カナダ	11	0	—	—	—
	イギリス	12	0	—	—	—
	オランダ	201	0	—	—	—
	ベルギー	26	3	—	—	—
	ハンガリー	8	1	—	—	—
	エストニア	0	0	—	—	—
	リトアニア	4	0	—	—	—
	韓国	292	12	—	—	12
	ドイツ	84	6	—	—	—
	フランス	8	4	—	—	—
	フィンランド	5	2	—	—	—
	ギリシャ	1	1	—	—	—
	フィリピン	80	5	—	—	12
	スイス	10	0	—	—	—
	インド	62	2	—	—	4
	タイ	14	2	—	—	12
	中国	35	0	—	—	—
	南アフリカ	1	0	—	—	—
	トルコ	0	1	—	—	—
チェコ	0	0	—	—	—	
小 計		13,479	160	—	—	75
そ の 他*		180	0	—	—	—
受 入 合 計		13,659	160	—	—	75

*姉妹校・スポーツ・ボランティア交流、ユネスコ短期、ヨーロッパ交流(21ヶ国)を含みます
※2020年及び2021年度は政府のコロナ感染防止対策による入国規制の為短期受入プログラムはキャンセルとなりました

GO GLOBAL YFU
Expand your world!

短期派遣プログラム

かめのり財団スカラシップによるもののほか、YFUが実施機関になるものです。対象地域が限られる場合があります。

	プログラム名・派遣先国	2018年度 以前累計	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
各種短期 プログラム	かめのり財団/韓国	60	10	—	—	—
	かめのり財団/中国	25	0	—	—	—
	BOSCH/ドイツ	50	0	—	—	—
	その他*	1,485	0	—	—	—
派 遣 合 計		1,610	10	—	—	—

*政府/フィリピン、ユネスコ短期、明泉/オーストラリア、新世紀国際教育交流/韓国、DHL DPWN/ドイツ、その他の単発プログラム等を含みます
*2020-2021 政府のコロナ水際入国規制により短期派遣プログラムは中止となりました

1951	世界平和の夢を若者に託したミシガン州アナーバーのレイチェル・アンドレセン博士（YFU初代会長）が国務省の委託を受けて西ドイツ75名の高校生をアメリカに招きYFU国際交流プログラムが始まる	2001	韓国への年間派遣（1名）始まる
1952	国務省はYFUを国際交流機関として正式に認可	2002	YFUの組織変更でアメリカ・プログラムはYFU USA財団、国際業務は国際YFU財団が分担、両財団事務所メリーランド州へ移転 外務省支援によるアメリカ高校生の年間受入プログラム（日米若人交流計画JUMP：25名）始まる〔2006まで〕 デンマーク、ハンガリーへの年間派遣（各1名）始まる タイからの年間受入（2名）始まる コロンビアから初めて年間受入（1名） 文部科学省等の支援による韓国短期派遣プログラム（新世紀国際教育交流プロジェクト）始まる
1958	日本から初めてアメリカへ2名年間派遣 日本YFU会長に篠原亀之輔博士就任	2003	タイへの年間派遣（1名）始まる JUMP夏期受入プログラム（アメリカ25名）始まる
1964	アメリカから夏期短期受入高校生6名来日	2004	ハンガリー、ラトビアからの年間受入（2名、1名）始まる
1969	アメリカから年間受入高校生1名来日	2005	新世紀国際教育交流プロジェクトに基づく韓国高校生の受入（大阪12名、鹿児島2名）始まる 文部科学省支援・日本語専攻外国高校生短期招聘事業（フィリピン5名、スイス5名）始まる エストニアからの年間受入（1名）始まる 外務省支援ヨーロッパ交流プログラムで21ヶ国から32名夏期受入、オランダ・イギリスから20名後期セメスター受入
1975	法人スカラシッププログラム始まる	2006	デンマーク、オーストリアからの年間受入（3名、1名）始まる ドイツポスト・ワールドネットの支援による日独短期交流プログラム始まる（派遣3名、受入2名）
1977	YFU日本協会（任意団体）組織される YFU日本ナショナル・ディレクターに一瀬齊男氏就任	2007	日本語専攻外国高校生短期招聘事業に基づきインドから初めて受入（5名） エストニアへの年間派遣（1名）始まる インドから初めて後期セメスター受入（2名）
1978	YFU国際本部、ワシントンDCへ移転 YFU日本協会理事長に牛場信彦氏就任	2008	かめのり奨学生韓国へ短期派遣（5名）
1979	大平正芳首相、YFU国際本部を訪問	2009	中国から初めて年間受入（1名） リトアニアから初めて年間受入（1名） かめのり奨学生韓国から短期受入（5名） かめのり奨学生中国へ短期派遣（5名） ポッシュ財団支援ドイツ高校生短期受入（10名）
1981	オーストラリアとの相互交流始まる（年間派遣16名、受入5名）	2010	かめのり奨学生中国から短期受入（5名） オーストリアへの年間派遣（2名）始まる モルドバから初めて後期セメスター受入（1名） フランスから初めて夏期短期受入（1名）
1982	上院議員推薦による全米50州代表高校生（100名）の夏期受入プログラム（JUSSE）始まる〔2002まで〕	2012	公益法人制度改革3法に基づく移行認定を経て公益財団法人YFU日本国際交流財団となる フランスから初めて年間受入（2名） 中国への年間派遣（1名）始まる
1984	スポーツ交流（SFU）始まる アメリカ政府高校生招致計画により都道府県代表47名年間派遣（府県交流）始まる〔1991まで〕	2013	インドネシアから初めて年間受入（1名） ポッシュ財団支援日本高校生のドイツ短期派遣（12名）始まる
1985	オーストラリアへの短期派遣始まる	2014	パラグアイから初めて年間受入（1名）
1986	韓国への短期派遣始まる フィリピンとの相互交流始まる（年間派遣1名、受入1名） YFU日本協会理事長に大河原良雄氏就任	2015	ブラジルから初めて長期受入（年間1名、前期セメスター1名） チェコから初めて後期セメスター1名受入 チェコに初めて年間学生1名を派遣
1987	日米間の姉妹校交流始まる	2016	チェコ、メキシコ、スロバキアから初めて年間受入（各国1名） ルーマニアから初めて前期セメスター1名受入 ドイツ政府支援ドイツ高校生短期受入（15名）
1988	ニュージーランドとの相互交流始まる（年間派遣5名、受入3名）	2017	エクアドルから初めて年間受入（1名） イタリアから初めて後期セメスター受入（1名）
1989	ドイツ、オランダ、スウェーデンへの年間派遣（2名、2名、1名）始まる	2018	ポーランドから初めて年間受入（1名） 公益財団法人YFU日本国際交流財団理事長に齊藤邦彦氏就任 アメリカ政府支援による沖縄「大使留学奨学生」派遣プログラム（7名）始まる
1990	イギリスへの年間派遣（2名）始まる スウェーデンからの年間受入（4名）始まる	2019	南アフリカから初めて短期受入（1名）
1991	自治省、(財)自治体国際化協会の支援による府県・政令都市代表高校生の自治体交流プログラム（自治体交流、58名）始まる〔1993まで〕 ドイツ、オランダ、ベルギーからの年間受入（4名、1名、2名）始まる	2019	アルゼンチン及びスペインからの初めて長期受入（1名）
1992	YFU日本ナショナル・ディレクターに江夏啓子氏就任 カナダ、ノルウェー、スペインへの年間派遣（5名、1名、1名）始まる ノルウェーからの年間受入（2名）始まる コミュニティ・カレッジ・プログラム（CCP）始まる	2020	コロナウィルス感染拡大により9ヶ国のみ派遣、受入プログラムは中止
1993	外務省、文部省共管財団法人の設立許可を受け（財）ワイ・エフ・ユー日本国際交流財団となる	2021	カナダへ19年ぶりに派遣（13名）コロナウィルス感染防止対策により受入プログラムは中止
1995	ベルギーへの年間派遣（1名）始まる カナダ、イギリスからの年間受入（各1名）始まる 政府より特定公益増進法人として認可	2021	公益財団法人YFU日本国際交流財団理事長に加藤良三氏就任
1996	国際交流基金の支援による韓国・フィリピンからの年間受入プログラム（各国5名）、外務省の支援によるイギリス、オランダからの年間受入プログラム（日英若人交流計画：10名、日蘭若人交流計画：8名）始まる〔2004まで〕 文部省の支援によるアメリカからの日本語専攻高校生短期受入プログラム（JAFS：100名）始まる フィンランドへの年間派遣（3名）始まる フィンランドからの年間受入（2名）始まる	2022	政府のコロナウィルス感染対策緩和により受入プログラム再開
1997	アメリカ政府の支援によるアメリカからの短期受入プログラム（沖縄ピース・スカラシップ：10名）始まる スイスへの年間派遣（4名）始まる スペイン、スイスからの年間受入（1名、2名）始まる		
1998	日本政府等の支援による沖縄県高校生のアメリカ年間派遣プログラム（40名）始まる 日本政府等の支援によるフィリピン短期派遣プログラム（10名）始まる		
1999	外務省の支援によるオランダからの短期受入プログラム（15名）始まる〔2004まで〕		
2000	(財)ワイ・エフ・ユー日本国際交流財団がレイチェル・アンドレセン賞を受賞 ユネスコ青年交流信託基金に基づく短期派遣・受入プログラム（豪ほか3ヶ国各国5名）始まる		